

清流

題 字 : 芳野 充

平成30年1月30日

第13号

発行所 加来不動産㈱

発行者 加来 寛

北九州市小倉南区守恒本町1-12-23

穏やかに

静かに

清流のように

物は大切にあつかう

わたしは有難いことに、去年の一月に四十歳の節目をむかえることができました。考えると人生の半分です。いや、わたしの両親はふたりとも短命であったことを考えると(父六十七歳、母五十九歳)、すでに半分以上経過しているのかもしれない。

四十歳を機に、わたしのなかで変わってきたことは、物に対するあつかい方です。それまでのわたしは、物に対するあつかいが雑で、物を投げ置いたり、足で物を移動させたり、手入れもまったくしていませんでした。このようなわたしの行動をふり返り、このままではまずいな、という衝動にかられました。それは、わたしのまわりには同年代でも魅力的な方がおおく、その方々とくらべてみると、とても未熟だと感じたからです。

また、わたしが師事している素心学塾塾長の池田繁美先生の著書「素心学要論」には、『ものを大切にあつかうことのできない人は、やはりまわりにいる人をも大切にできないでしょう。ものに愛情を向けることのできない人は、人間に対しても同じです』と書かれてあります。

一方で、メジャーリーグで活躍するイチロー選手は、自分のバットやグローブなどの道具を、とても大切にあつかうことでも有名です。さらにイチロー選手は、道具を作ってくれている人や、道具の原点である自然に対しても、大切に想う気持ちをわすれない、と言います。

このようなことを踏まえてわたしは、物に対するあつかい方を変える行動をおこしました。まず、仕事プライベートを問わず、靴の手入れをするようにしました。また大切にしているスーツには、スチームをかけるようになりました。扉の開閉時には、最後まで手をそえ、なるべく音を立てないように気をつけたり、物を投げて置かないことや、足をつかって物を移動するような行動にも意識が働くようになってきました。新たな発見でしたが、物を大切にあつかい、手入れしているとき、気持ちがスッキリし、心もおだやかになってくることを感じます。

ただ、正直に申し上げると、まだまだ満足にできていとは言えません。時間はかかるでしょうが、これからは物を大切にあつかい、そしてまわりの人や自然をも、大切にできるようにしたいと思います。

加来 寛

